

No	感染症(PT)	出典	概要
330	感染	Vox Sanguinis 2007; 93(Suppl.2): 31	日本赤十字社(JRC)が全国的ヘモビジュランス体制を導入してから14年が経過した。報告された輸血副作用症例数は年間約2000例で、過去3年間はほぼ一定である。非溶血性輸血副作用は報告症例の約80%を占め、輸血関連急性肺障害などが含まれる。輸血感染症の報告数は年々減少している。JRCのヘモビジュランスは病院の自発報告に基づいており、病院と血液センターとの協力が不可欠である。
331	感染	第51回日本医真菌学会総会 2007年11月9-10日	中国で鼻周囲の肉芽腫病変を呈した36歳男性の生検組織から分離された菌が、形態学と分子生物学的検査でConidiobolus coronatusと同定された。Itraconazoleを12ヶ月間使い、完全に治癒した。患者は同真菌によるEntomophthoromycosisであった。中国で初めての報告例である。
332	感染	日本医真菌学会雑誌 2007; 48(Suppl 1): 83 第51回 日本医真菌学会総会	Conidiobolus coronatusによるEntomophthoromycosisの中国での初めての症例報告である。36歳男性で、10ヶ月前より鼻閉が生じ、7ヶ月前より鼻背部が発赤・腫脹し、診察時、鼻全体より頬部、上口唇にかけて高度の腫脹と変形を認めた。病理検査で慢性好酸性肉芽腫病変がみられ、rDNAの塩基配列分析の結果Conidiobolus coronatusと一致した。Itraconazole12ヶ月間投与により完全に治癒した。
333	ウイルス感染	ABC News Online 2006年11月12日 ABC News Online 2006年11月15日	オーストラリアの養護施設で致死的な呼吸器疾患が発生し、2006年11月12日現在、高齢者4例が死亡し、43例が未だ罹患している。施設の患者と職員は抗ウイルス治療を受けた。11月15日現在、5例が死亡し、52例が罹患している。
334	ウイルス感染	Arch Virol 2007; 152: 1209-1213	中国で分離されたブタの脳心筋炎ウイルス(EMCV)、BJC3およびHB1の完全な遺伝子配列を決定したところ、各々、7746および7735ヌクレオチドであった。他のEMCV株の遺伝子配列と比較すると、両株ともBEL-2887A/91、EMCV-RおよびPV21と高い相同性を示した(92.5-99.6%)。また、他のEMCV株と比べ、両株のリーダー蛋白で2つのアミノ酸変異およびBJC3のVP1で1つのアミノ酸置換が見られた。系統発生的分析の結果、両株ともサブグループEMCV-30に属していた。
335	ウイルス感染	Aust Vet J 2007; 85: 134-140	Menangleウイルスに自然感染した雌ブタから生まれた死産の子ブタおよび胎仔の病理学的所見を得るため、1997年6-9月の生殖病アウトブレイク中にNew South Walesの養豚場から入手した、死産した子ブタ49頭、ミイラ化または半ミイラ化した周産期胎仔35頭、中絶した胎仔6頭を剖検した。関節彎曲、頭蓋顔面および脊椎変形、肺形成不全、脳および脊髄変性がしばしば見られた。Menangleウイルスの子宮内感染は重度の骨格および神経学的奇形と関連する。
336	ウイルス感染	Canadian Blood Services 2006年12月18日	2006年12月18日付で、カナダ血液サービスは供血者が供血前に記入する供血記録の問診事項に一部修正を加える。カナダ保健局の指示により、ヒト以外の霊長類(サル、ヒヒ、チンパンジー、アカゲザル、あるいはその血液や唾液)との職業的接触に関する質問を追加した。サル泡沫状ウイルス(SFV)に関する認可された標準検査法がないため、供血者がこの質問に「はい」と答えた場合は無期限に供血延期となる。研究所で霊長類を扱う人、獣医師、動物園職員などが延期対象となるだろう。
337	ウイルス感染	CDC Press Release 2007年8月22日	米国疾病対策予防センター(CDC)と協力施設の科学者が、よく見られるアフリカフルーツコウモリ的一种において、マールブルグウイルス感染を特定することに初めて成功した。マールブルグウイルスは、ヒトや霊長類に重篤で死に至ることも多い出血熱を引き起こす。コウモリがマールブルグウイルスを保有することが疑われていたが、証拠はなかった。この研究結果はPLOS ONEに掲載された。この研究は、マールブルグウイルスの伝播についてより理解し、ヒトにおける感染拡大を予防・減少させる助力になるとと思われる。
338	ウイルス感染	CDC/MMWR 2007; 56(45): 1181-1184	米国4州における2006-2007年のアデノウイルス血清型14(Ad14)に関連した急性呼吸器疾患に関する報告である。Ad14は稀にしか報告されないが、全ての年齢層の患者に重症で致死的な呼吸器疾患を起こす可能性がある。2006年5月にニューヨーク州で生後12日目の乳児がAd14感染により死亡し、07年3-6月にオレゴン州、ワシントン州およびテキサス州で計140名の感染患者が確認された。これらの患者から新規のAd14変異種が分離された。
339	ウイルス感染	EID 2006; 12(12)	南アフリカで2006年初めにコウモリに引っかけた後、狂犬病様の疾患で死亡した77歳男性から、Duvenhageウイルスが分離された。その地点から約80km離れたところで、36年前にそのウイルスによるヒト感染が1例だけ報告されていた。
340	ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1084-1086	成人におけるコクサッキーウイルスA-16(CVA-16)による致死肺炎の、初めての症例報告である。本患者は心筋炎も左心室機能不全も示さなかった。患者から分離されたCVA-16株は標準株とはヌクレオチド相同性が低かったが(78.6%)、中国で1999-2004年に循環し、手足口病またはエンテロウイルス感染疑いの小児の大便中から分離された株(GenBank登録番号AY821798)と高いヌクレオチド相同性を示した(98%)。新規の、強毒性のCVA-16が出現しうることが示唆された。